

あ ゆ ち
Ayuchi
[No.105/2026.10]



「水月-秋音-」 山崎有美さん



Special

樹形が防風対策ともなり、冬の時期に吹く伊吹おろしから家を守っていた。あるとき、祖父江町山崎の里人が、採れた大粒のぎんなんを清須市の枇杷島あたりに売りに行ったら、通常のぎんなんの六〜七倍の高値で売れたそう。それから大粒が実るイチヨウの樹の栽培が集落全体に広がっていった。

祖父江生まれの品種。

木曾川の水と豊かな土壌で育まれた祖父江ぎんなんの特徴は、なんといっても大きな粒ともっちりとした食感だ。代表的な品種は、「久寿（きゅうじゅ）」「藤九郎（とうくろう）」「金兵衛（きんべえ）」「栄神（えいしん）」の四種類。その中で祖父江生まれは、久寿、金兵衛、栄神の三種で、現在も原木がある。藤九郎は、隣町の旧穂積町

（現在の岐阜県瑞穂市）生まれになる。ちなみに、品種の名前は、原木を植えた人の名前が由来となっており、栄神は植えた人の名前と地名から一字ずつ取られて名付けられたそう。



Special

秋の味覚！

祖父江ぎんなん



ぎんなんの生産量が全国でトップクラスの愛知県において、その多くを占めている「祖父江ぎんなん」。大粒の美しい翡翠色で多くの人々を虜にする「祖父江ぎんなん」について、祖父江ぎんなんブランド部会の光田二郎さんと石原正人さんにお話を伺いました。

祐専寺イチヨウ



生きた化石！？

イチヨウの起源は約2億5千万年前の古生代まで遡り、恐竜がいた時代に繁栄していたことが、発掘された化石の研究結果から明らかになっています。氷河期に絶滅危機に直面しますが、中国の一角に生き残ったイチヨウの驚きの生命力で世界中に広まり、「生きた化石」と呼ばれています。

全国トップクラスの生産量！

秋になるとイチヨウの葉が色づき、黄金色の美しい景色が広がる愛知県稲沢市祖父江町。ぎんなんの生産量が全国でトップクラスであり、「祖父江ぎんなん」というブランド名で全国にその名を轟かせている。

実は、ぎんなんの生産を目的としたイチヨウの栽培を始めたのは、ここ祖父江町が最も古い。だが、その歴史は意外と新しく、始まりは明治の終わり頃になる。

祖父江町ではもともと、江戸時代より神社仏閣や屋敷まわりにイチヨウの樹が植えられてきた。昔の家は茅葺き屋根が多く、葉や幹に水分を多く含むイチヨウの樹は防火対策として植えられていたのだ。また、横に広が



久寿（久治）
果形は丸みのある大粒。苦みが少ない。八月中旬から出荷が可能。樹齢約一七〇年の原木がある。実は久寿、樹は久治と書く。



金兵衛
果形はやや縦長の中粒。苦みが少ない。七月中旬から出荷が可能。樹齢約二五〇年の原木がある。



栄神（栄伸）
果形はやや縦長の中粒。凹凸が少ない。八月初頭から四月頃まで出荷が可能。樹齢約一四〇年の原木がある。



藤九郎
果形は丸みのある大粒。ほろ苦い。八月下旬から出荷が可能。岐阜県の旧穂積町生まれ。



祖父江ブランドの誕生。

代々受け継がれてきた祖父江町のぎんなん。その価値を守るため、二〇〇九（平成二十一年）年に愛知県の地域ブランドである地域団体商標を取得し、「祖父江ぎんなん」が誕生した。

ブランド化にあたってまずこだわったのが、塩水選の濃度だ。塩水選とは、収穫した実を塩水につけて選別する工程のこと。殻と中の実の間に隙間があると浮き、浮き上がったものはすべて破棄となる。しっかりと実の詰まったものを見極めるために、ポイントとなる濃度をまず初めに決めたそう。サイズも、一つの重さが三・五〇グラムの2Lや三・九〇の3Lに加え、新たに四・四〇の特3Lサイズを設定。六段階での規格表示にすることで、特徴である大粒がよりアピールできるようになった。

そして、品質を守るこだわりの一つに、自然に落下した実は出荷しないということがある。鮮度を保つためだ。果実が樹にしっかりと繋がっている早出しの時期は、手作業で一粒ずつ収穫する。それも一〇月頃になると、樹をゆすれば実は落ちてくるようになり、収穫がずいぶん楽になるという。だが、大変な作業であることに変わりはない。

新たな基準のもと丁寧収穫され、選ばれたものだけが、「祖父江ぎんなん」を名乗ることができるのだ。

収穫から出荷されるまで

- 1 鈴なりになった実を手作業で収穫。（高いところは、ひっかける金具がついた長い棒で樹を揺すって実を落とす）
- 2 専用の機械に実を入れて果肉を取り除き、実を取り出す。
- 3 実を塩水に入れて、浮いたものを取り除く。
- 4 厳選された実は磨かれ、陰干しで乾かす。
- 5 箱に詰められて出荷。



ぎんなんは生鮮野菜!?

秋の味覚のイメージが強いぎんなんだが、早いものだと七月中旬から出荷されるものもある。出荷時期の早いものは、何とも言えない美しい翡翠色をしている。それが、秋が深まって熟していくとともに琥珀色へと変わっていく。かたい殻に覆われているため、木の実と誤っている人も多いだろう。だが実は生ものであり、生鮮野菜な



のだ。理想は早めに食べることで、保存したい場合は冷蔵庫の野菜室での保存をお勧めする。チルド室なら約一か月保存ができるそう。

茶碗蒸しや炊き込みごはんなどいろいろな食べ方があるが、農家さんがお勧めする食べ方は、「レンジン」。つまり、割れ目を入れた殻を封筒に入れて口を折り、電子レンジで温める調理方法のことだ。温まったら殻と薄皮を剥いて、少し塩を振る。この手軽にできる調理方法が、シンプルにぎんなんの風味を味わえると教えてくれた。

イチヨウも暑さ対策!?

現在、祖父江町に植えられているイチヨウは一万千本以上。樹齢一〇〇年以上の大樹も何本もあり、今でも多くの実をつけている。

栽培方法は代々口伝で伝えられてきた。

四品種が一堂に集まる公園!



二〇二二（令和三）年、代表品種である久寿、藤九郎、金兵衛、栄神が植えられた「祖父江ぎんなんパーク」が、祖父江町山崎地区に開園した。展望台のある小高い丘や多目的広場、集い広場があり「ぎんなん、歴史、健康」をテーマに多彩な交流が楽しめる場となっている。

黄金色のイチヨウで染まる十一月下旬から十二月初旬にかけて、「そぶえイチヨウ黄葉まつり」を開催。ス



受粉は虫や自然に任せ、人は樹が健やかに育つための手助けが基本となる。栽培で大変なのは、イチヨウの大敵となるものの対策だ。以前はクスサンという毛虫で、葉を食べ尽くしてしまうと、二、三年は実がつかなくなるので駆除に苦労した。それが、いつの頃からか見なくなったそう。そして近年、大敵となっているのが、夏の異常な暑さと日照りだ。農家さんと農協などが話し合い、取り組んでいるのが草生栽培。あえて役に立つ植物「大麦」を植えて地面の乾きを防ぐというもので、いろいろと模索している。

ここで一つ、愛知県の興味深い取り組み

栄養たっぷり!

ぎんなんには、タンパク質、脂質、炭水化物、カリウム、リン、カロテン、ビタミンE、ビタミンCなど豊富な栄養素が含まれています。滋養強壮、高血圧防止、風邪予防などの効果も期待できる食べ物として注目されています。

※一度に大量に食べると中毒症状があるので、一度の食べ過ぎに注意し、5歳以下の子どもには食べさせないでください。



テージイベントや散策、ぎんなんの食べ比べ、ぎんなんを使った特産品の販売、夜間のライトアップなどさまざまなイベントが用意されている。

まつりの開催期間中は、県内外から多くの人が集まり賑わう。黄金色の幻想的な風景を楽しみながら、ぜひ祖父江ぎんなんを味わってみたいものだ。

まつりで一粒食べたときの、「おっ!」という、おいしさに驚く皆さんに出会えるのがうれしいです。ぜひ、もちもちの祖父江ぎんなんを食べてみてください!



祖父江ぎんなんブランド部会の石原さん(左)、光田さん(右)

祖父江ぎんなんパーク

アクセス

JR東海道本線「尾張一宮」駅または、名鉄名古屋本線「名鉄一宮」駅で尾西線津島方面へ乗り換え、「山崎」駅で下車。すぐ目の前。

大学卒業後に名古屋市役所に入庁して定年退職するまで、福祉関係の仕事に携わっていました。初めての仕事は、障がいのある子どもたちが生活する施設で、子どもたちと一緒に生活して、学習や療育などさまざまな活動をサポートする児童指導員。まさか事務職で現場の仕事をする事になるとは思っていませんでしたが、現場の実情や求められていることを知ることができました。そこでの経験は、その後のさまざまな福祉の事業や施策などに活かすことができ、財産となるとても貴重な経験となりました。

福祉の仕事の中で長く携わったのが、生活保護の部署です。介護が必要な高齢者や認知症の高齢者などが、住み慣れた地域で生活できる環境を整えるための事業などにも取り組みました。そのときに感じたのが、関心を持つこと、理解することの重要さです。福祉の問題というのは、家族など自分の身近な人が関係してきて初めて関心を持つ人も多いと思います。しかし理想は、現時点で、直接関係がないと思っっている人々にも関心を持ってもらい、理解してもらうことです。

ノーマライゼーションという、高齢者も障がい者もすべての人が同じように生活で

きる社会を目指すという意味の言葉があります。社会に生きる一人ひとりが

少しでも福祉問題に目を向け理解すること
で、年齢や障がいのあるなしに関わらずすべての人にやさしい、ノーマライゼーションを実現した社会につながっていくのではないかと思います。

仕事をしているときは、心配性なところがあるのでいつも何か心配ばかりしていました。そんなときに思い浮かべるのが、「人間万事塞翁が馬」という言葉です。人生は良いことも悪いことも予測できない、苦境が幸に転じることもあるという、この言葉が生まれた物語を中学時代に読んだとき、はっとしたんですよね。こんなことがあるのかと。それからなぜか忘れられず、心配ごとや気持ちが沈んだときに思い出し、「このときを耐えれば、何か良いことがあるかもしれない」と、私にとって前向きな気持ちへと導いてくれる言葉になっています。

しかし今思えば、心配性であったため先々のことまで考え、問題を起こすことな



く上手く仕事を進められたところはあるかと思えます。そして、大変なことがあっても「なんとかなる」と思えるようになりました。「なんとなく」という気持ちで落ち着いて取り組んでいけば、どんな苦境も乗り越えていけるということが、長い市役所勤めの中で学んだ成果ですね。

現在は、名古屋市文化振興事業団の仕事に携わっています。振り返ってみると、私が文化と言えるものに触れていたのは、高校生のときに遊びでバンドを組んでいたときくらいです。文化とは縁遠かったのですが、仕事を通してさまざまな文化に触られる機会があることに感謝ですね。初めて観劇した能・狂言の舞台は、笛や鼓の音とともに、能面を付けた演者の声が朗々と響き渡る、独特の世界観で包まれていました。不思議な感覚で、「こんな世界があるんだ」という新たな発見と驚きがありました。

名古屋市文化振興事業団では、文化活動をされているアーティストさんはもちろん、学生たちの文化活動も応援しています。学生たちに関しては、公演に向けた準備の仕方であったり、チケット販売のノウハウ

人の心を動かす文化に触れ、新しい扉が開きました。

（名古屋市文化振興事業団 専務理事兼事務局長
あいちF.G教育文化財団 評議員）

■小杉政已 プロフィール

1965年、愛知県名古屋市生まれ。名古屋大学法学部を卒業。1987年に名古屋市役所に入庁し、西区福祉部長、健康福祉局生活福祉部長、南区長を歴任。2025年4月より現職に就任。趣味は山歩き。山から見る景色は、心が洗われるような、ほかでは見られないような美しさがある。お気に入りの山は御嶽山。

なども指導。公演ができる場所の提供だけにとどまらず、公演を実現するために必要なことを学べる場も提供することで、芸術の道を志す学生たちの成長につながるような取り組みを行っています。

また、名古屋市から運営を委託されている地域の文化小劇場では、演劇やコンサートなど地域の皆さまに喜んでいただける文化活動を積極的に発信しています。私が文化に触れて新しい扉を開いたように、皆さまにもさまざまな文化に触れて何か新しい発見ができるような場になればいいなと思っています。

文化は人の心を動かす素敵なものであり、大切なものであることを、名古屋市文化振興事業団の仕事を通して改めて強く感じました。また、自分の好きなことに取り組んでいる人たちに出会えたことで、刺激ももらっています。自分で「これをやるんだ」ということを決めて生きている人たちは、とてもイキイキされているんですよね。これまで一生懸命仕事をしてきましたが、これからは私自身が情熱をもって取り組める何かを見つけたかと思っています。目下、探し中ですね。そして、もっと人生を楽しみ、幸せなものにしていきたいと思っています。――談――

今年、結成三十一年目を迎えた「シルバーボランティア 劇団かがやき」。現在の団員数十五名、平均年齢七七歳。始まりは、「六〇歳からの心と体をほぐす素人芝居」という講座で、受講を終えた受講生たちが、このまま終わりたいかと思ひ立ち上げた。

「最近では、セリフを覚えるのに時間がかかるようになってきました」

と話す会長の高野和男さんと副会長の田口まり子さんの声には張りがあり、滑舌が良い。その秘訣を聞くと、週一回の稽古で行う腹式発声や早口言葉の練習の賜物だと教えてくれた。

三十一年間で行った公演数は二七三回。高齢者福祉施設や老人会などへの慰問活動を中心に、西文化小劇場でも一般向けの公演を行っている。演目も時代劇を専門に、笑いや涙ありの人情もの、水戸黄門、喜劇や寸劇など幅広い。一番上演の多い演目は水戸黄門シリーズ。黄門さま役を演じるのは、最年長の九二歳の団員だ。立ち上げ当初からのメンバーで、耳は遠いが、舞台上に立つと張りのある声でセリフを決め、とても上手い。慰問先では最後に客席をまわり握手をするが、皆さんに大人気だ。



抱えていた。だが、見事にやり遂げて観客を魅了し、自分たち自身も感動するくらいいい舞台となった。目標は続けていくことという高野さんと田口さん。

「私たちと一緒に、新しいワクワクを始めませんか」

現在、新しい仲間となる団員を募集中だ。



●10月25日(日)
西生涯学習センター(名古屋市)
で公演決定!
「時代劇だよ、全員集合」

ぜひ、
観に来てね!

田口
まり子さん

高野
和男さん

平均年齢77歳のパワー炸裂！ 時代劇でみんなを元気づける。

公共・高齢者福祉施設等での大衆演劇の公演
シルバーボランティア 劇団かがやき

第35回助成(団体)

1995年に結成。現在の団員数は15名で、男性が5名、女性が10名。2001年に中日福祉ボランティア賞、2005年にボランティア県知事賞、2009年に名古屋市長賞を受賞。団員たちはほとんどが未経験で、60代、70代でも子ども役をやったり、女性が男役をやったりと、「こんなワクワクすることはない」と、自分ではない何者かになれることを楽しんでいる。

団員募集中!
55歳以上で、
芝居や歌が大好きな方、
一緒に楽しみたい方
(担当:高野)



「地域資源としての企業博物館」の著者である佐藤友美さん。長年、中日新聞社で美術展を中心とした文化事業の企画運営や、文化団体などとの連携事業に携わってきた。その後トヨタ自動車に転職し、二度目のトヨタ博物館在職中に「自分に求められていることは何か」を改めて考えたそう。そこで、在職しながら名古屋大学大学院に入学し、企業博物館についての研究を始める。



「企業博物館の研究は意外に多く、という切り口で取り組むか、試行錯誤しました」

当時、博物館法改正に向けた検討が始まっており、博物館は社会教育施設としての役割のほかに、他館や地域などと連携して文化観光施設として地域の活力向上に繋がる取り組みも求められるようになった。愛知県はモノづくりのまちとして産業観光にも力を入れていることから、テーマを「企業博物館と産業観光」に決定。社会が産業や企業活動を地域資源として捉えていく過程を考察していった。研究を進めて行く中で、イギリスの社会学者ジョン・アリーの理論に出会う。

「観光のまなざしという、まなざしによって観光の場はつくられるという理論です」

観光スポットである場所や文化財などは、そこを訪れたいと思う人、そのモノを見たいと思う人がいて初めて観光資源になっていくということだ。そうした人々のまなざしが、博物館を観光地にしていくことになる。

修士・博士課程の五年間で研究した成果は、博士学位論文にまとめ「地域資源としての企業博物館」として、二〇二五年に出版された。

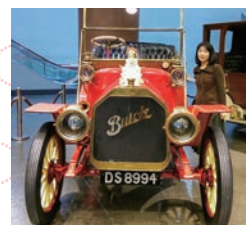
そして、二〇二六年に全日本博物館学会賞を受賞する。

「学芸員や大学の研究者以外の受賞はほばないので驚きました」

佐藤さんは現在、クリエイティブ・リンク・ナゴヤでディレクターとして、まちづくりなどと連携した文化芸術活動を支援している。活動にあたっては、まずそこに何があつて、どう繋げていけるのかを探していくプロセスを大切にしている。そして、まわりの人々がまなざすことで、そこが人と繋がる場所になっていくと考えている。

「名古屋には、おもしろい文化、芸術がたくさんありますよ」

そのおもしろいことを多くの人に届けるために、佐藤さんの活動は続いていく。



まなざすことで地域資源になる、 そのプロセスがおもしろい。

企業博物館と地域のかかわりを産業観光と関連づけた研究
佐藤友美さん

第35回助成(個人)

大学卒業後中日新聞社に入社し、美術展企画などの文化事業に携わる。その後、トヨタ自動車に転職して社会貢献活動やCSR活動に従事し、トヨタ博物館副館長やトヨタボランティアセンター長などを務める。2023年よりクリエイティブ・リンク・ナゴヤで理事兼ディレクターに就任し、現在に至る。2018年玉川大学の通信教育部で学芸員資格を、2023年名古屋大学教育発達科学研究科博士課程を修了し博士(教育学Ph.D)を取得。著書の「地域資源としての企業博物館」のほか、共著として「高度経済成長と社会教育」がある。



2026年 4月

- 語人 サヤ佳さん(語り活動) 第26回助成・個人
月に一回、二日間の“のんびり広場”～「寄っとい DAY」生き
づらさ・行きづらさ〔とよた市民活動センター・ホール(豊田市)〕

2026年 5月

- 西村一成さん(絵画制作) 第20回助成・個人
西村一成 新作絵画展2024-2026 Grateful Dead 生き
延びて、描く〔ギャラリー宮脇(京都府)〕
- 劇団シンデレラ 第9回・第36回助成・団体
一宮警察署「安全安心アンパサダー」就任(一宮市)
- 語人 サヤ佳さん(語り活動) 第26回助成・個人
月に一回、二日間の“のんびり広場”～「寄っとい DAY」生き
づらさ・行きづらさ〔とよた市民活動センター・ホール(豊田市)〕

2026年 6月

- 大嶽隆司さん(演劇) 第34回助成・個人
ブッタ斬れ!!〔西文化小劇場(名古屋市西区)〕
- ナゴヤディレクターズバンド 第8回助成・団体
第56回定期演奏会(愛知県芸術劇場コンサートホール(名古屋市東区))
- 東海メールクワイアー(男声合唱) 第7回助成・団体
第67回定期演奏会「創団80周年 高田三郎男声合唱特
集」〔愛知県芸術劇場コンサートホール(名古屋市東区)〕
- 名知聡子さん(現代絵画) 第27回助成・個人
名知聡子展「Echoes of Home」
〔Kumamoto Alternative Art Forum(熊本県)〕
- 森克徳さん(陶芸) 第4回助成・個人
森克徳作陶展〔ギャラリー彦六(高浜市)〕
- 第48回日本新工芸展出展〔松坂屋美術館(名古屋市中区)〕
森 克徳さん(陶芸) 第4回助成・個人「兆光」
新野素子さん(染色) 第2回助成・個人「惜春」
- 語人 サヤ佳さん(語り活動) 第26回助成・個人
月に一回、二日間の“のんびり広場”～「寄っとい DAY」生き
づらさ・行きづらさ〔とよた市民活動センター・ホール(豊田市)〕

2026年 7月

- 語人 サヤ佳さん(語り活動) 第26回助成・個人
月に一回、二日間の“のんびり広場”～「寄っとい DAY」生き
づらさ・行きづらさ〔とよた市民活動センター・ホール(豊田市)〕

2026年 8月

- 総合劇集団俳優館 第26回助成・団体
夏休みファミリー劇場2026(創立40周年企画) 音楽劇「森は
生きている」〔アマノ芸術創造センター名古屋(名古屋市東区)〕
- むすめかぶき 第31回助成・団体
「雪月花」待ち得て今ぞ 時に逢ふ(愛知県芸術劇場(名古屋市東区))
- 新城吹奏楽団 第6回助成・団体
サマーコンサート〔つぐグリーンプラザ(北設楽郡設楽町)〕

仲間達の近況メモ

- 語人 サヤ佳さん(語り活動) 第26回助成・個人
月に一回、二日間の“のんびり広場”～「寄っとい DAY」生き
づらさ・行きづらさ〔とよた市民活動センター・ホール(豊田市)〕
- 平松八江子さん(ピアノコンサート自主企画) 第6回助成・個人
第74回 ひらめのほのぼのコンサート
〔熱田生涯学習センター(名古屋市熱田区)〕

2026年 9月

- Marimbart(打楽器の演奏) 第23回助成・団体
「打フェスタ with MARImbart Vol. XXI」
〔瑞穂文化小劇場(名古屋市瑞穂区)〕
- 劇団シンデレラ 第9回・第36回助成・団体
劇団シンデレラとこども環境ワークショップ「地球温暖化って? み
どりの森の大切さって?」〔一宮スポーツ文化センター(一宮市)〕
- 語人 サヤ佳さん(語り活動) 第26回助成・個人
月に一回、二日間の“のんびり広場”～「寄っとい DAY」生き
づらさ・行きづらさ〔とよた市民活動センター・ホール(豊田市)〕
- 名知聡子さん(現代絵画) 第27回助成・個人
グループ展「ART POTLUCK, KYOBASHI」
〔Gallery & Bakwry Tokyo 8分(東京都)〕

書籍・会報誌等の発行

- 東海化石研究会 第31回助成・団体
4月…東海化石研究会誌「化石の友」第71号発行、「師崎層群深海生
物化石研究集 -2021年発掘調査以後の研究と新知見-」発行
- 美術文化史研究会 第11回助成・団体
4月…機関誌「びぞん」第101号発行
- 野田史料館 第1回助成・団体
5月…「野田史料館報」第175号発行
- 春日井郷土史研究会 第15回助成・団体
5月…「春日井郷土史」第10号発刊
- 江南郷土史研究会 第3回助成・団体
6～9月…「江南郷土史研究会会報」568～571号発行
- 小牧市文芸協会 第2回助成・団体
6～8月…郷土文芸誌「駒来」第653～655号発行
- 岡崎地方史研究会 第34回助成・団体
8月…「岡崎地方史研究会便り」No.66発行
- まつり同好会 第25回助成・団体
8月…「まつり通信」642号発行

これからの公演

- 平松八江子さん(ピアノコンサート自主企画) 第6回助成・個人
10/24…第8回みんなとみなとコース〔港文化小劇場(名古屋市港区)〕
- シルバーボランティア 劇団かがやき 第35回助成・団体
10/25…「時代劇だよ、全員集合」〔西生涯学習センター(名古屋市西区)〕

※ここには事務局に入った連絡分をまとめて掲載しました。連絡状況によって、掲
載のタイミングがずれる場合があります。ご了承ください。今後も皆さんの活
動状況をお知らせいただければ幸いです。

「強くなるには基礎が大切ということを、
毎日の練習で思っています」
塩満さんは、単調な練習だがしつかり行う
ことで、試合で力を発揮できることを実感し
ている。それはほかの部員たちも同様だ。先



と、試合で一つでも多く勝ち進むために、と
きには厳しく、真剣な眼差しで練習に励む。
目標は、一人ひとりが県大会で入賞するこ
と！大会で一つでも多く勝ち進むために、と
きには厳しく、真剣な眼差しで練習に励む。

地元の幸田町は卓球が盛ん
な中学校が多く、中学生との合
同練習も継続的に実施。そこ
では、丁寧に教えている部員たち
の姿がある。



基礎を大切にした日々の練習で、仲間とともに県大会入賞を目指す。

卓球部 愛知県立幸田高等学校 第36回援助(高校生)

3名の顧問の先生と1名の外部指導員で指導。「経験した分だけ自信になる」と考え、全国高等学校体育連盟主催の大会をはじめ、愛知県卓球協会や岡崎市卓球協会主催の大会などに積極的に参加。2025年は愛知県高等学校総合体育大会卓球競技の女子学校対抗の部で県大会に出場しベスト8、男子・女子各ダブルスの部に出場、国民スポーツ大会卓球競技の少年シングルの部に男子・女子ともに出場。2022年より毎年県大会に出場という実績もあり、幸田高校卓球部入部を目指し入学する部員も増えている。

前列左から、植村先生、部長の的場さん、山口先生
後列左から、中野先生、部長の塩満さん、
外部指導委員 岩月貴文さん



「水月―秋音―」
縦30×横30×高さ2.5cm
和紙と絹の二重構造の日本画
山崎有美さん(第36回助成)

● 作者の言葉
月と季節の植物のダブルイメージで描いたシリーズの作品です。月の映える水面に紅葉が流れる様を描きました。下の和紙に月を金箔で描き、上の絹に紅葉を描くことによって月の輝きや奥行きのある表現を目指しました。



編・集・後・記
「シルバーボランティア劇団かがやき」で団員募集されたとき、80代の方の応募があったそうです。そのお話を伺い、何事も始めるのに年齢は関係ないと改めて思いました。「やってみたい」「好きだ」という好奇心が、イキイキとした毎日を楽しめる秘訣なんだなと。そんなふうに素敵に年を重ねていきたいと思いました。

表・紙・作・品

第37回(2026年度) 助成および援助対象先決定 (敬称略)

日々の暮らしに、さまざまな感情や発見をもたらしてくれる芸術文化。
今年度、新たに加わった“仲間”たちをご紹介します。

一般助成 個人

町田 悟…… 青少年を対象に科学フェスティバルの企画・実行
板倉歌奈子… 音楽教育理念を継承する記念演奏会と、新設コーラスによる地域文化活性化
堀 夏紀…… アメリカ近現代ピアノ作品の演奏・研究活動
榊原忠美…… 朗読活動
小塚康成…… 27年の創作活動と25年の美術教育
五月女かおる…… 「家畜化された動物」をモチーフとした彫刻作品の制作
水上卓哉…… 絵画制作・発表、ワークショップの開催
山岸美紗…… 岡崎市夏山町平針地区の祭礼文化の記録・発信

一般助成 団体

あいち宇宙イベント実行委員会
…… 航空宇宙産業分野を目指す高校生を対象に宇宙イベントを実施
アカデミア合唱団…… 音楽を通じて多様性と共生を学ぶ地域参加型合唱団
特定非営利活動法人 まいゆめ…… 学ぼう防祭 ～みんなで学ぼう! 備えよう! 東海豪雨を忘れない～
Sparkle -music with dance-
…… 芸術をもっと身近に、地域に開かれた音楽・舞踊レクチャーコンサート
日進児童合唱団… 日進市の伝統行事を題材にしたミュージカル制作と公演・演奏活動
劇団シアター・ウィークエンド…… 名古屋市昭和和文化小劇場にて「くちづけ」を上演
パペットシアターゆめみトランク…… さまざまなアーティストと協働で人形劇を創造し、上演
守山の文化を考える会… 地元題材のオリジナルミュージカルや音楽会を市民参加型で開催
八雲琴研究会…… 八雲琴の文化財としての保存・活用と提言、古文書の翻刻など
MAS NAGOYA 実行委員会…… 名古屋市内で地域の住民とともにアート活動を展開

高校生の文化および体育活動への援助

愛知県高等学校文化連盟…… 歌舞伎鑑賞会
愛知県高等学校文化連盟…… 狂言鑑賞教室
名古屋市立菊里高等学校…… 放送部
愛知県立旭野高等学校…… 合唱部
愛知県立豊田東高等学校…… 卓球部
愛知県立千種高等学校…… バスケットボール部(男子)
愛知県立知立高等学校…… バレーボール部(男子)



あゆち第105号 ● 2026年10月

発行:公益財団法人 あいちFG教育文化財団
〒460-8678 名古屋市中区栄三丁目14番12号 あいち銀行本店内
☎(052) 262-9601
<https://www.aichi-fg.co.jp/sustainability/social/society/foundation/>

